

## 「JENESYS2.0」

### 中国植物検疫青年交流団

訪問日程 平成 28 年 12 月 14 日（水）～12 月 21 日（水）

#### 1 プログラム概要

中国国家質量監督検験検疫総局が派遣した、中国植物検疫青年交流団（団長：黄 亜軍（コウ・アゲン） 中華人民共和国国家質量監督検験検疫総局 動植物検疫監管司植物検疫処 処長）計 33 名が、12 月 14 日から 12 月 21 日までの 7 泊 8 日の日程で来日しました。

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、代表団は東京・神奈川・群馬・愛知・京都を訪問し、日本の植物検疫関係各所の視察や関係者との交流を通じて日本の同分野への理解と関係者との親睦を深めました。また、歴史的建造物の見学、日本文化体験などを通して「クールジャパン」に直接触れ、日本に対する包括的な理解を深めました。

#### 2 日程

##### 12 月 14 日（水）

- ・羽田空港より入国
- ・お台場海浜公園見学
- ・日本科学未来館見学
- ・オリエンテーション

##### 12 月 15 日（木）

- ・農林水産省訪問
- ・横浜植物防疫所訪問
- ・歓迎会

##### 12 月 16 日（金）

- ・群馬県へ移動
- ・りんご農家訪問

##### 12 月 17 日（土）

- ・京都府へ移動
- ・金閣寺、嵐山見学

##### 12 月 18 日（日）

- ・清水寺、二条城見学
- ・月桂冠大倉記念館視察

##### 12 月 19 日（月）

- ・愛知県へ移動
- ・田原市農政課ブリーフ
- ・花き（菊）農家視察
- ・JA 愛知みなみフラワーステーション訪問

##### 12 月 20 日（火）

- ・名古屋市植物防疫所関連視察  
（飛島コンテナ埠頭株式会社（TCB）、伊勢湾海運株式会社多機能倉庫現業所訪問）
- ・東京都へ移動
- ・歓送報告会

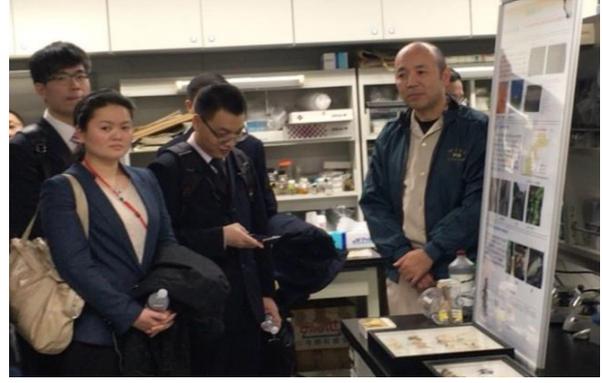
##### 12 月 21 日（水）

- ・羽田空港より帰国

3 写真



12月15日  
農林水産省訪問 (東京都)



12月15日  
横浜植物防疫所訪問 (神奈川県)



12月15日  
歓迎会 (黄亜軍団長による挨拶) (東京都)



12月16日  
りんご農家訪問 (群馬県)



12月18日  
月桂冠大倉記念館視察 (京都府)



12月19日  
花き(菊)農家視察 (愛知県)

	
<p>12月19日 JA 愛知みなみフラワーステーション訪問 (愛知県)</p>	<p>12月20日 名古屋植物防疫所関連視察 (飛島コンテナ埠頭株式会社(TCB)) (愛知県)</p>
	
<p>12月19日 田原市農政課ブリーフ (愛知県)</p>	<p>12月21日 歓送報告会 (東京都)</p>

#### 4 参加者の感想（抜粋）

○日本の植物検疫処理に関する措置は明瞭で効果的だ。検疫有害動植物、非検疫有害動植物及び指定有害動植物の区分が論理的で、輸入禁止対象か、検疫実施対象か、非検疫対象かが一目で分かる。日本は国際植物防疫条約（IPPC）の活動に積極的で、大国としての影響力を十分に発揮している。日本の農産物輸出には大変特色があり、ブランドづくりの面で手本となっている。

○日本は農産物の工業化生産において、農産物・食品に対する薬剤や肥料の使用に関する規定を厳守している。検疫に対する高い法意識や高度な科学技術を駆使した検疫方法は、中国で同分野に携わる者が学ぶに値する。

○日本では植物検疫に関する法律・規則が整備され、検疫の全プロセスが綿密に定められている。法律は厳密に執行され、専門の協会が農家に対して全面的かつ入念に指導し、農家は農産物の品質や残留農薬を厳格にコントロールしているため、農産物の品質が良い。農産物の生産企業や港湾運営会社では自動化が進み、効率的である。時間に限りがあり、多くの問題について十分な交流ができなかったため、今後も引き続き交流を深め、植物検疫分野での協力を促進していきたい。

○今回の植物検疫青年交流団の交流では、日本における植物検疫の発展についてより深く理解することができ、この分野の各段階で従事する人々のプロ意識や能力の高さに敬服した。農林水産省の統一的計画が秩序をもって実施されていることや、地場農産物産業に対する農協のサポート、さらには植物防疫所の専門的研究、定期研修に至るまで、極めて深い印象を受けた。特に、日本の農家が自らの農産物に誇りを持っていることに感動した。

また、今回の交流では日本の伝統文化の保護や発展について、より一層感じるところがあった。中国の伝統文化をどのように存続させ、広めていくかは、我々が深く考えるに値する問題だ。

○「JENESYS2.0」は非常に素晴らしい事業だ。招へい国は国際協力・交流を最も必要とするアジア、オセアニア諸国、研修対象者は35歳以下の青少年であり、この事によって日本への理解を深めることだけでなく、アジア、オセアニア諸国の若者の協力・交流促進、さらには世界の平和、経済の発展、文化の融合にも大きな影響を及ぼしている。

今回の交流活動はスケジュールが非常に綿密に組まれ、多彩で特色があった。歴史や文化に触れる機会もあれば、現代科学技術の見学もあり、政府部門の科学研究機関との交流もあれば、産業での交流もあった。全行程に3名の専任者が同行し、温かく行き届いたもてなしを受け、スケジュールの進行も非常にスムーズだった。今回の活動を通じて、初めて日本を訪れた参加者は大いに視野を広げて多くのものを得、これまでに何度も日本を訪れている参加者は旧交を温め、印象をより深めた。

日本は現代化の進んだ国であるとともに、独特な歴史のある国でもある。日本人はルールを守り、礼儀を重んじ、法律や時間を守り、計画性があるといったところが大変印象的だった。今回の活動、特に東京、京都、名古屋の三大都市での視察を通して日本に対する理解がさらに深まり、この現代文明と伝統的美徳を兼ね備えたアジアの大国がより一層好きになった。

○今回の訪問の過程で最も印象的だったのは、日本人の秩序に対する意識と綿密な管理理念だ。日本人は時間に厳しく、物事をてきぱきとこなす。細部に注目してみると、日本人は何事も手順にこだわり、きちんと段取りを決め、自分の仕事に対してはプロとしての高い誇りや職人気質を持っている。これは我々中国人が学ぶべきものだ。

○今回の日本訪問では、主に植物検疫業務に関する交流を行った。農林水産省の横浜植物防疫所、名古屋植物防疫所を訪問し、日本の植物検疫制度とその関連作業の実施状況を詳細に理解した。両国の植物検疫官が交流することで双方の理解が深まり、互いに長所を取り入れ短所を補って、植物検疫作業の有効性を向上させ、両国の農産物貿易を促進させる役割を果たした。

また、今回の訪問では日本の名所旧跡も見学し、日本の歴史や文化についてかなり理解することができた。日本の都市建設、教養、個人および民族の理念などの優れた点は学ぶ価値がある。

帰国後、この目で見た本当の日本、特に日本における個人の教養、都市建設の至る所で見られる政府の人的配慮や利便性について、身近な人に話そうと思う。交流が増えるにつれ、中日間の理解や意思疎通が一層深まり、日中関係は平和、安定への道を進んでいくことだろう。

○今回の訪問で印象深かった点を総括すると、清潔、秩序、自信、実務、と言える。

1. 東京、京都、名古屋の通りはとても清潔だった。消火栓など多くの公共施設には良質の資材が使用されている。公共施設への投資を惜しまず、投資後もメンテナンスを行うことで使用期間が延長される。
2. 街路上を行き交う人々には秩序がある。階段の上り降り、歩道の通行、列に並ぶなどの公共の場面ではどこも秩序が守られ騒ぎにならない。
3. りんご農家を視察した際、普通の農家が国家レベルの視察団に自信をもって対応していた。この自信も、自らの事業に精通していることから生まれるものだ。
4. 実務については、接待面でも細かな点まで非常に実務的で、事前にしっかりと勉強されていると感じた。日本人の生活における実務的な姿勢が理解できた。